

「第 45 回道路と交通論文賞」講評

＊技術部門 論文選考委員長 小根山 裕之

第45回道路と交通論文賞の技術部門については、令和6年度に掲載された論文2編を対象として、論文賞選考委員会にて審査を進めた。

本委員会での慎重な審査の結果、山本隆氏、後藤誠氏、野中康弘氏、山田純也氏、下川澄雄氏による「高速道路リニューアルプロジェクトにおける工事規制時の交通影響分析の現状と課題」を授賞論文とした（なお、下川氏は教授職のため受賞対象外）。

わが国の高速道路では、初期に供用された区間を中心に老朽化による更新時期を迎えており、道路の健全性を根本的に回復しようとする更新工事が「高速道路リニューアルプロジェクト」として進められている。実施にあたっては工事規制時の交通現象とその特徴を知っておく必要があるが、知見の蓄積は十分ではなかった。そこで本論文は、路上工事による工事規制時の交通容量を中心に交通影響分析に関する技術指針類などの既往の知見と、これまでのリニューアルプロジェクトにおける工事規制時の交通影響分析結果を整理し、今後のリニューアルプロジェクト実施にあたって検討すべき実務上の課題を提示した。結論として、交通規制方法と交通容量の関係に関するさらなる知見の蓄積や渋滞発生過程の微視的な視点からの分析の必要性、広報活動やプライシングの影響、社会的影響を定量的に評価する手法や安全性の観点からの検討の必要性などを示している。

本論文ではリニューアルプロジェクトにかかわる交通容量に関する技術的な知見を体系的に整理しており、この部分だけでも実務者には一定の価値がある。また、分析結果に基づいた課題の提示も今後のリニューアルプロジェクトの実施に向けて重要な事項を提起しており、論文全体として実務的な観点での重要性、有用性が高く評価された。工事中の交通現象についてはまだ未解明な部分が多く、実務の現場での調査研究の実施が必要とされている。本論文をきっかけとして、全国各地で行われているリニューアルプロジェクトにおいてデータ収集の試みが行われ、新しい知見を得るような動きにつながり、工事規制による交通影響分析がさらに進展することを願っている。また、本課題にかかわらず、実務の現場での調査研究が活性化し、これらの成果がより多く論文として投稿されることを期待したい。